



ANNIVERSARY

50

ありがとう！10,000フォロワー

皆様、本日はご多忙の中、東村山むさしの幼稚園50周年記念式典にお集まりいただき、誠にありがとうございます。想定を遙かに上回る少子化、また、様々に変貌を繰り返しています経済情勢の中、多大なるご支援をいただき、無事に半世紀、事業を継続することができました。この場をお借りし、改めて御礼申し上げます。

さて、お手元にごございます資料、「50年の歩み」に添える形で、事業の概要をご説明させていただきます。昭和49年、農業を営んでいた祖父である野澤真一と、現理事長野澤秀夫は、農地だった畑にて幼稚園を開園。「武蔵野の自然を子ども達のためにいつまでも残したい。」そう願い、むさしの幼稚園を開園。

その後、第二次ベビーブームの最中、当時は二年保育が主流でしたが、三年保育を開始し、教室も続々と増設。ピーク時には380人の園児を迎え入れ、その後も常時300人を超えるお子様をお預かりし、20年、30年と、安定した運営を継続することができていたようです。

ところが、開園当時には200万人を超える出生数でしたが、昨年はなんと77万人まで減少。かつ、女性の社会進出に伴う保育需要の増加にて、幼稚園児は激減の一途。そうした極めて厳しい声を聞く中でも、おかげさまで200人を超えるご支持を頂いておりますが、そのような時代背景の中、先んじて幼稚園を認定こども園化し、地域の保育需要に応え始めるとともに、保育所の待機に苦しむ家庭の実情を受け止め、「幼稚園の隣に保育所を設置すれば、この恵まれた環境を、本来保育園を探すであろう子ども達も伸び伸び育むことができるのではないか？」と、保育所型の認定こども園を設置いたしました。

祖父や父から受け継いできた言葉、つまり建学の精神、それは、本当は、幼稚園や保育園の制度に分断されることなく、「地域の子どもたちすべて」であると私は受け止め続けてきたのですが、そこに、乳幼児教育保育を一体的に行える施設である「認定こども園」という素晴らしい制度が生まれ、我が園も積極的に取り組み続けています。結果、学園全体では350人前後という、開園以来のピークにも迫る地域の子どもの育ちを支え続けている施設へと成長することができました。

さて、今般の建て替えに関しましては、いよいよ迫った幼稚園側施設の老朽化が顕著になり、しかしながら、未だ歯止めのかからない少子化の進行、さらにはインフレという狭間にも立たされ、「建替をすべきか否か」と悩みましたが、今般3期4年にわたる幼稚園側施設及び総合ホールの建替へと舵を取り、本年3月に無事に竣工を迎えたところです。

建築に関わる補助は、決して恵まれたものではなく、現状の建設費と補助単価は乖離。面積も制限。しかしながら、今後の日本の未来を支えて行く人材育成の場として、【温故知新、豊かな環境。深き価値観、広き感性を子どもたちへ】という思いをこの東村山にて具現化すべく実行。加えまして、学校法人としての地域社会教育の拠点として、「子どもを取り巻く街」へも俯瞰を広げ、今後は、在園児のみならず、地域の皆様が集える社会教育的インフラとしての夢を描き、新たな取り組みも積極的に進めて参ります。

私事ではございますが、代々、受け継がれてきました野澤家の歴史と、過去すべての皆様方への感謝を胸に、決して持続や継承に甘んじず、さらなる成長と発展、加えましては業界の振興と進化に際しても寄与していけるよう、邁進して参ります。

むすびに、今後とも、野澤学園を含む当グループにご期待頂けますよう、また、引き続きご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。以上、事業報告とさせていただきます。ありがとうございました。